

COPY

19 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭58—138484

51 Int. Cl.
H 04 R 1 10

識別記号
1 0 3

庁内整理番号
6507—5D

43 公開 昭和58年(1983)9月17日

審査請求 未請求

(全 頁)

54 ハツドホーン

株式会社所沢工場内

51 出 願 人 ハイオニア株式会社

21 実 願 昭57 33420

東京都目黒区目黒1丁目4番1

22 出 願 昭57 1982 3月10日

号

72 考 案 者 千葉健

73 代 理 人 弁理士 大津洋夫

所沢市花園4 2610ハイオニア



明 細 書

1. 考案の名称

ヘッドホーン

2. 実用新案登録請求の範囲

ヘッドバンドを頭頂バンドと、ホーンユニットを取り付けた頭側バンドとに分割し、この両バンドを互に長手方向に任意の位置で停止できるよう摺動自在に連結すると共に、この連結部分で頭側バンドを円方向に折りたゝめるように構成したヘッドホーン。

3. 考案の詳細な説明

本考案はヘッドバンドが折りたゝみ自在なヘッドホーンの改良に関する。

従来の、この種ヘッドホーンには第1図及び第2図で示すような構造のものがある。即ち、前者のものはヘッドバンドAの中央部がピンBで回転自在に連結されており、折りたゝむ場合には鎖線で示すように、左右のバンドA₁とA₂を前方向或は後方向に回転して引き揃えるのである。又、後者のものはヘッドバンドAの中央部をヒンジC



で回転自在に連結し、使用時には左右のバンドA₁、A₂が内方向への適度なバネ性をもつて開き、折りたゝむ場合には鎖線で示すように、ヒンジCを支点として左右のバンドA₁とA₂が内方向に回転させるようにしたものである。

しかしながら、上記のいずれのヘッドホーンも、折りたゝんだ形態が常に一定なので、収納や携帯等に不便な場合があると共に、左右のホーンユニットD₁、D₂とが衝突するので好ましくない。又、ヘッドバンドAの長さを調節するには該バンドAの端部とホーンユニットD₁、D₂との間で行うようになつていたので、部品点数が多くなると共に、構造が複雑化する等の欠点があつた。

そこで、本考案は上記のような欠点を解決しようとするもので、ヘッドバンドの折り曲げ部分とバンドの長さ調節部分とを同一個所で行わせると共に、折りたゝんだ形態を任意に変更できるように構成して、部品点数が少く構造が単純で携帯等に便なるヘッドホーンを提供するのが目的である。

以下、本考案を図面の実施例に基づいて説明す



ると、第3図は本考案に係るヘッドホーンの一部を切断した正面図で、第4図は同側面図、第5図は折りたゝんだ状態の一部を切断した正面図である。

上記の図面において、1はヘッドバンドで、該バンド1は円弧形状の頭頂バンド2と、左右の頭側バンド3及び4との3部分から構成されており、両頭側バンド3と4の下端には夫々ホーンユニット5と6が取り付けられている。尚、頭側バンド3、4は頭頂バンド2よりバネ性をもたない材料で形成されていると共に、頭側バンド3、4の巾は頭頂バンド2のそれよりも狭くなっている。而して、上記頭頂バンド2の左右の端部には、夫々頭側バンド3、4が通過自在な角穴7、8が形成されていると共に、該角穴7、8から頭頂バンド2の中央に向つて角穴7、8より巾の狭い長穴9、10が所定長だけ連結されている。尚、頭頂バンド2の端部は段状折曲部2a、2bによつて他の部分より頭側バンド3、4の板厚分だけ外側に出ている。このため頭頂バンド2と頭側バンド



3、4が連結状態のとき、両者の内面がほぼ同一面となる。

一方、上記頭頂バンド2の角穴7、8を通つて該バンド2の内側から外側に挿入された両頭側バンド3、4の上端には、耐摩耗性の良好な摺動突起11が頭頂バンド2側に向けて突設されている。この摺動突起11は前記長穴9、10の巾と同一径の軸部11aと、その先端に設けた長穴9、10の巾より大径を膨大部11bとから構成されているが、膨大部11bは後述するように長穴9、10に挿入し易くするために円錐形状に形成されている。

次に、上記実施例の作用について説明する。先ず、使用時には摺動突起11を長穴9、10に向けて強く押圧すると、膨大部11bが長穴9、10を押し広げて頭頂バンド2の内側に突出し、これによつて頭側バンド3、4の上端は頭頂バンド2から離反しないように係止されて、頭頂バンド2と両頭側バンド3、4が縦列状態となり、頭部に装着することができる。



そして、ヘッドバンド 1 の長さを調整するには、頭頂バンド 2 及び頭側バンド 3、4 を相互に、その長手方向にスライドすればよく、この際、摺動突起 1 1 の軸部 1 1 a は所定の摩擦抵抗をもつて長穴 9、1 0 内をスライドするので、頭側バンド 3、4 を任意の位置で不用意に移動しないように停止させることができる。尚、長穴 9、1 0 の角穴 7、8 近傍に抜止突起 1 2 を突設しておけば、摺動突起 1 1 が不用意に長穴 9、1 0 から抜け落ちることがない。

次に、ヘッドバンド 1 を折りたゝむ場合には、先ず頭側バンド 3、4 の上端を強く引き抜けば、摺動突起 1 1 の膨大部 1 1 b が長穴 9、1 0 の両側を外側に変形して該長穴 9、1 0 から引き抜かれ、頭側バンド 3、4 の上端が頭頂バンド 2 から離反する。次いで、ホーンユニット 5 及び 6 を内側に折り込めば、頭側バンド 3、4 は角穴 7、8 を支点として回転する。この際、頭側バンド 3、4 は角穴 7、8 をスライドできるので、両ホーンユニット 5 及び 6 が衝突しないよう任意の形状に



折りたゝむことができる。又、頭側バンド 3、4 は角穴 7、8 の対角線位置に捻つた後、引き抜けば、頭頂バンド 2 から取り外すことができる。

尚、上記の実施例とは逆に、頭側バンド 3、4 側に角穴 7、8 と長穴 9、10 を形成し、頭頂バンド 2 の端部に揺動突起 11 を設けるようにしてもよい。

本考案は叙上のように、ヘッドバンド 1 を頭頂バンド 2 と、ホーンユニット 5、6 を取り付けた頭側バンド 3、4 とに分割し、この両者 2 と 3、4 を互に長手方向に任意の位置で停止しうるよう揺動自在に連結すると共に、この連結部分で頭側バンド 3、4 を内方向に折曲しうるようにしたので、ヘッドバンド 1 の長さ調整部分と折り曲げ部分とが同一箇所となり構造が単純で部品点数が少くなる。又、折りたゝんだ状態で頭側バンド 3、4 がスライドでき、その形態を自由に変化できるので、収納、携帯等に便利となる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図及び第 2 図は夫々従来例のヘッドホーン



を示す正面図、第3図は本考案に係るヘッドホーンの一部を切欠した正面図で、第4図は同側面図、第5図は折りたゝんだ状態の一部を切欠した正面図である。

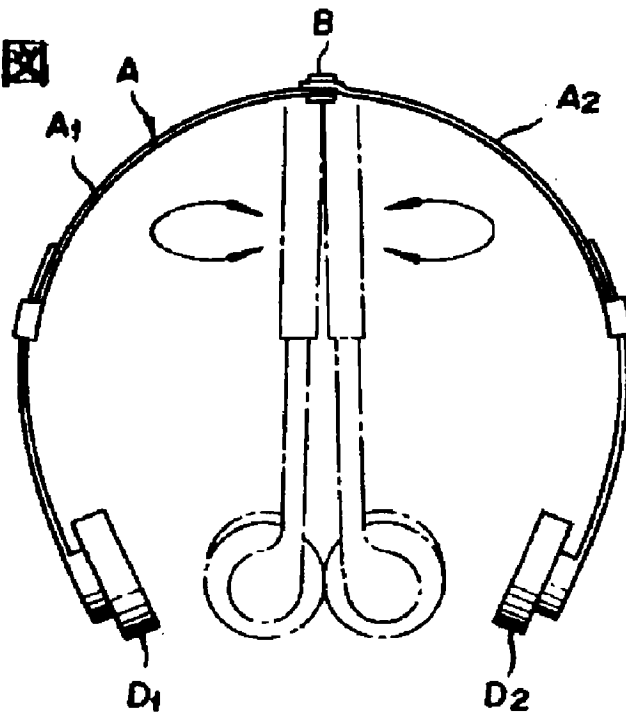
1…ヘッドバンド、2…頭頂バンド、3、4…頭側バンド、5、6…ホーンユニット、7、8…角穴、9、10…長穴、11…摺動突起。

実用新案登録出願人 パイオニア株式会社

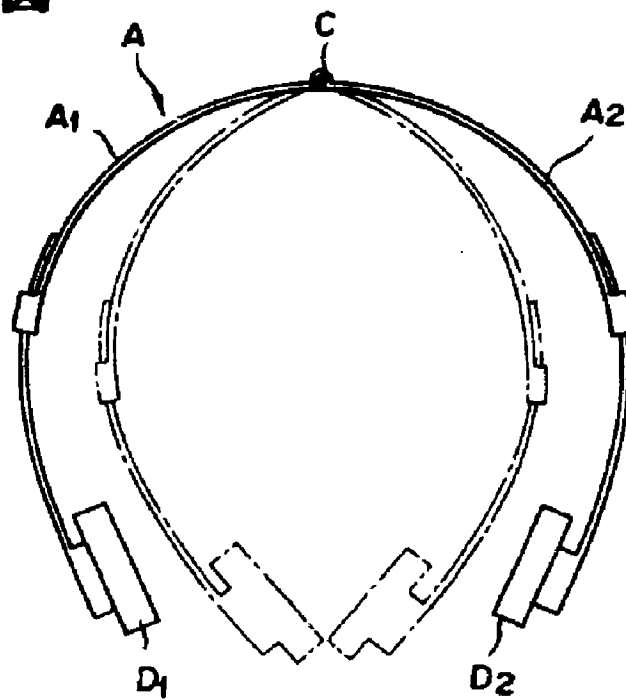
代理人 弁理士 大 津 洋



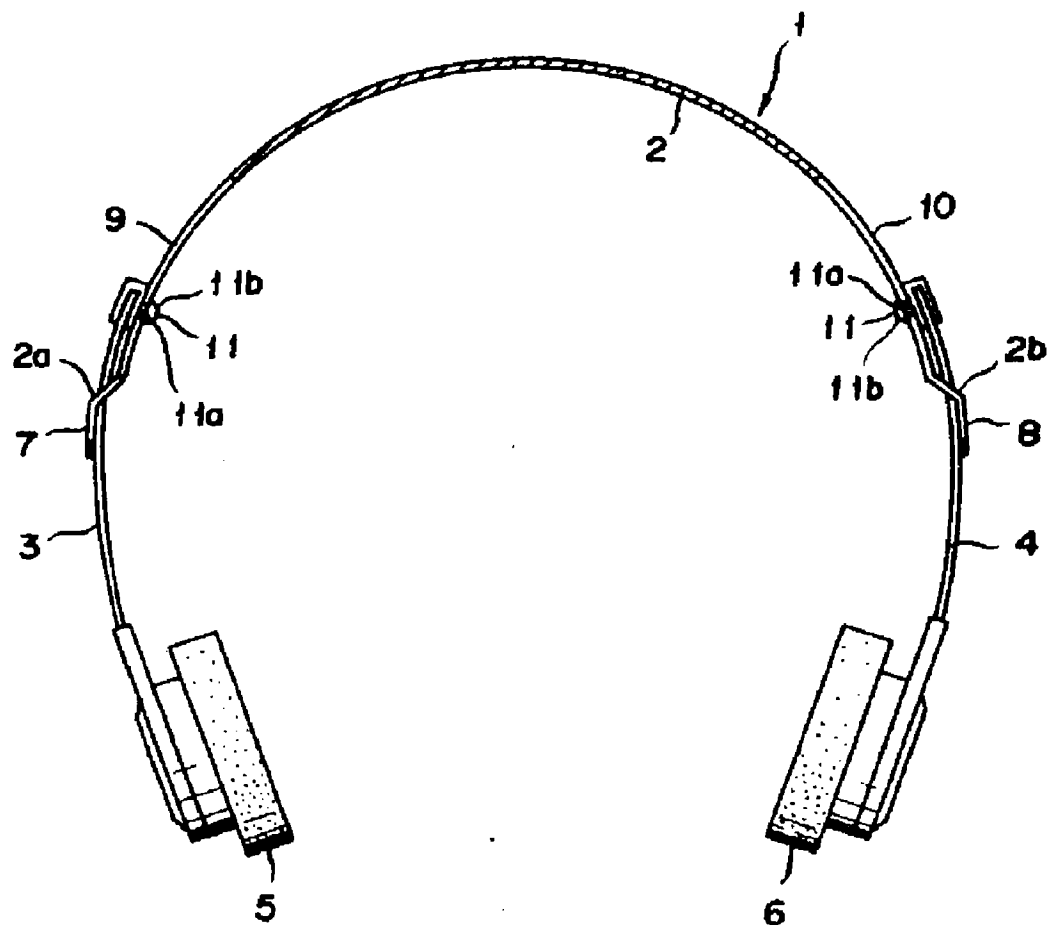
第 1 図



第 2 図



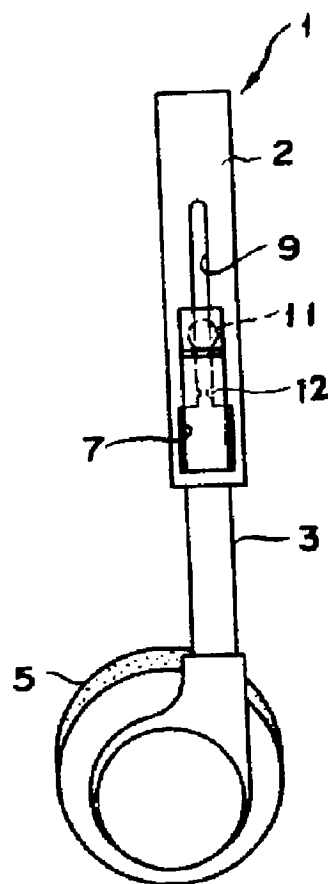
第 3 図



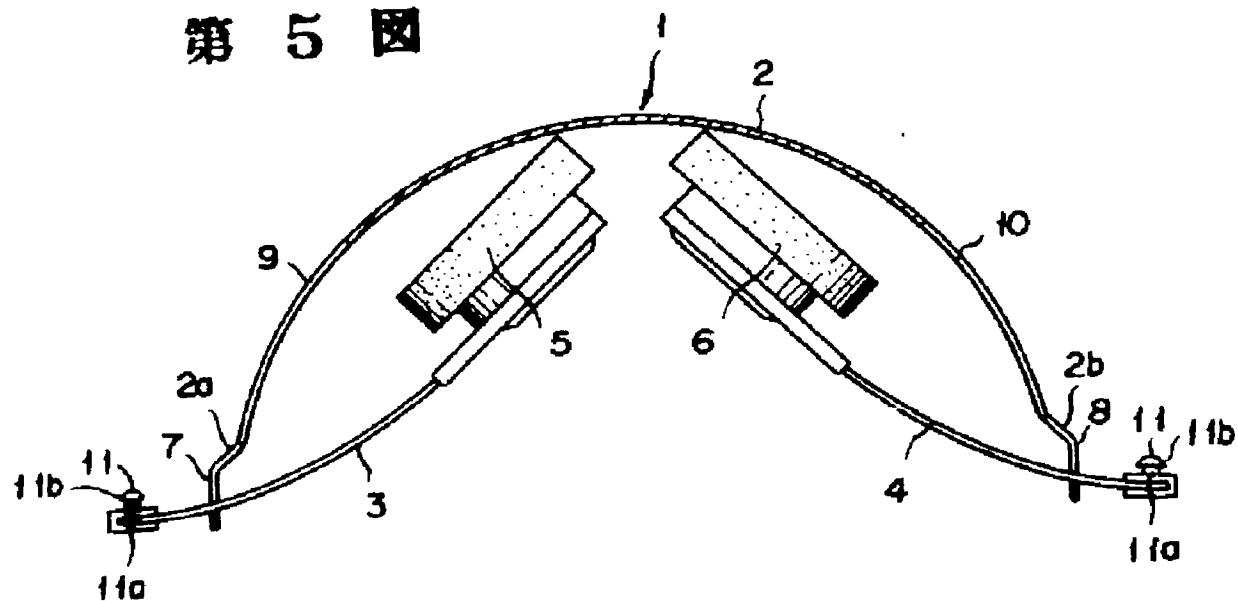
實用新案登録出願人 パイオニア株式会社
代理人 弁理士 大津 洋 夫

実開 58-38484
765

第 4 図



第 5 図



実開 58-138484

実用新案登録出願人 バイオエフ株式会社

代理人 弁理士 大津 洋 夫

766